



北側より夜景

□この規模の保育所は内装制限がかかりますが、木をふんだんに表した設計とするために準耐火仕様の燃え代設計としています。準耐火仕様では内装制限がかかりませんが、構造材もすべて見せることが出来ます。
 □燃え代設計にすることにより木材の材種が増えましたが、仕上げ材の不燃処理が不要ですし、準耐火になったために屋内消火栓の設置義務がなくなり、コスト的には抑えることができました。
 □基本的には真壁構造ですが一部に見せない石膏ボードで被覆した柱と梁を設け、木目のきれいな材料だけではなく、同じく山の恵である節だらけの材も使えるように配慮しています。
 □北側園庭に面した出入口は全面開放が出来るようになっていて火災などの災害時に素早く避難が出来るようにしています。
 □3,4,5歳児のスペースは2本の柱で支えられていて、その柱をたよりに、子どもたちがいくつかの島を作るように配置しています。
 □学童スペースと0,1歳児スペースには地下室があって一昨年この地域を襲ったような竜巻の時のためのシェルターになっています。



学童スペース



3,4,5歳児スペース



0, 1歳児スペース



子ども支援センター

低炭素型社会推進への提案

- 1、近くの山の木でつくる。特に資源と加工エネルギーを無駄にしない無垢材でつくる
- 2、自然採光のみで日中の照度をできるだけ確保するために北側天窓を有効に配置
- 3、太陽熱利用のパッシブソーラーシステムを採用し冬の暖房負荷を軽減
- 4、夏の冷房負荷は有効な通風計画とサーキュレーションで気流を起こすことで軽減



秩父の森の見学会

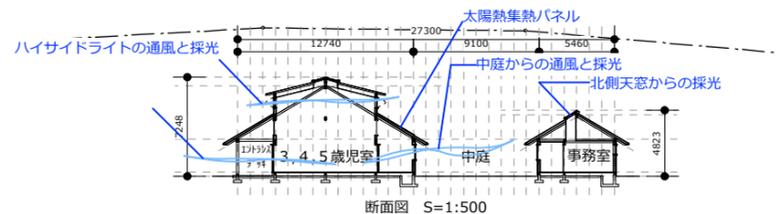
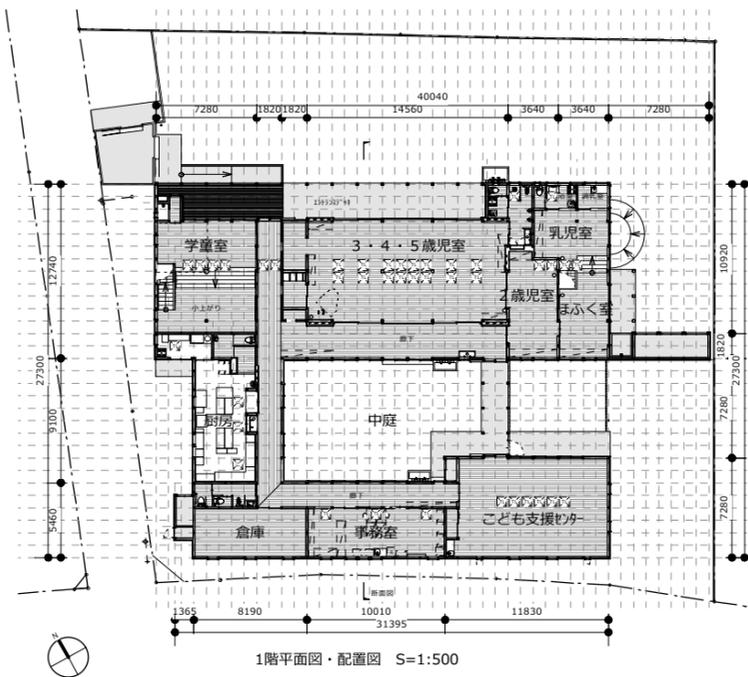


製材所見学会



ワークショップ

□秩父の森に父兄さんと子どもたちをご案内して近くの山の森林資源の豊かさを知ってもらいました。
 □森でお仕事をされる皆さんにお話しをお聞きしました。
 □森で切ってきた丸太がどんなふう製材されて乾燥されて一本一本の木が検査されて出荷されるのか見学していただきました。
 □森の見学会に先立って、森の大切さについての勉強会を行いました。
 □基本計画が固まってきた段階で敷地に建物の大きさをロープで描くワークショップを行いました。その後、ロープの中を子どもたちに思い切り走ってもらった保育所内で建物の大きさを身体で確認していただき設計にフィードバックしています。



建築作品部門

低炭素型社会の推進

(建物の低炭素化の推進、再生可能エネルギーの積極的活用、森林・水・生態系などの自然資源の保全と活用)

埼玉県熊谷市 わらしべの里共同保育所

わらしべの里共同保育所は、子どもたちのための木の家を作りたいという願いからスタートしました。

無垢の木の間の中で子どもたちと向かい合いたいという願いです。森のなかで子どもたちと向かい合うように木の家の中で子どもたちと向かい合うのです。

それ故に、この建物は無垢材で計画することにしました。無垢材での計画では木材の調達 중요합니다。原木の調達を見据えた計画を立ててゆく必要があります。

幸い有志で始めた「木の研究会」の仲間である秩父の金子製材所さんに木材の調達をお願いすることが出来、埼玉県産材率8割以上とすることが出来ました。

我々の近くの山には木があります、その木を子どもたちの空間に届けてあげること。それがそのまま資源を大切にする低炭素型社会を作り上げることになり、さらにはその気持ちを子どもたちの中に育むことになります。



応募代表者：古川泰司

アトリエフルカワー級建築士事務所

1988年 パルフィ総合建築計画

1990年 有限会社長谷川敬アトリエ

1995年 株式会社内田工務店

1998年 アトリエフルカワ設立

実務経験年数28年

建築を作ることは、結果として物理的な建物を作ることにはなりますが、それを上げるプロセスのなかで、人と人、人と物をつなげることで物語を織り上げてゆくの建築家の仕事だと思っています。

求められる耐震性能や室内環境性能、あるいは防災対策は必須の条件ですが、それに意味づけしてゆくのはそこにある物語です。

木は山にあります、何十年、何百年も前に植えられ手入れされてきたものです。それを大切に使う物語を語り実践してゆきたいと考えています。